

田島ケ原のサクラソウ

小杉 昭光

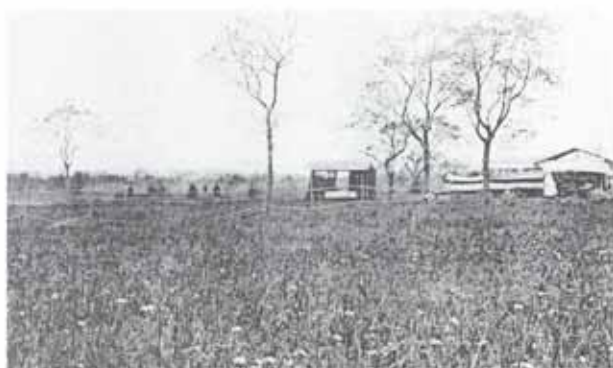
私が初めて田島ケ原をおとづれ、サクラソウを見たのはざっと60年余り前のことで、小学校の低学年の遠足の時であったと思う。サクラソウの花盛りの田島ケ原は、子供心にも大変綺麗な原っぱという印象を受けたことを覚えている。

サクラソウは日本をはじめ朝鮮半島、中国、東シベリアなどに分布し、やや湿りけの多い草原などに生ずる多年草で、日本では北海道南部から本州、九州に分布している。

ソクラソウの自生地はあちこちに点在するが本県の荒川沿岸の地には多く、現在国の特別天然記念物に指定されている浦和市の田島ケ原のほか、かつてはその下流の浮間ケ原や戸田ケ原、上流の錦ケ原など川沿いの地に点々と存在していた。

なかでも浮間ケ原や戸田ケ原は江戸時代の中頃から多くの人々に知られ、元禄、文化、文政の頃江戸を中心にしてサクラソウの栽培が盛んになるや、これらの地の野生種をもとに300とも400ともいわれるさまざまな園芸品種が作り出されたのである。サクラソウはもともと花弁の色や形などに変異が多く、それらの遺伝的性質を巧みに利用した江戸時代の人々の努力の結晶として、優れた園芸品種が出現したと言ってよいだろう。

各地の人里近くのサクラソウの自生地は、近年都市の発達に伴い開発やその他さまざまな事が原因で次第に消滅の道をたどり、現在荒川沿岸の自生地は僅かに浦和市の田島ケ原のみとなってしまった。田



昭和9年 田島ケ原サクラソウ自生地
(写真提供 浦和市行政管理課)

島ケ原は国の特別天然記念物に指定され、関係者の熱心な保護活動が続けられているが、今後周辺地域の開発が進めば進むほど今まで以上にいろいろな角度からの研究と、その成果にもとづく保護保存の努力が必要に成ってくると思われる。

サクラソウを中心にそれといろいろな関わりをもちながら生活している植物や動物の一团をまとめて(生態系を)保護する事は、言うはやさしく行うは難しい問題である。しかしサクラソウに限らずそこに見られる植物や動物は、いずれもその地域の地形や気候の変動という地球の歴史と、人間の活動や生物自体の進化と適応の歴史の結果として存在しているもので、貴重な文化的遺産であると共に我々の大切な環境の構成要素である。我々にはこれらを次の世代に伝えていかねばならない責任のあることを忘れてはならない。

(浦和市文化財保護審議会委員)

サクラソウ自生地株数、開花状況調査について

浦和市文化財保護課副主幹 高山 清司

田島ケ原のサクラソウの株数調査は、昭和40年より毎年4月中旬、サクラソウの開花に合わせて行ってきています。その結果が下の表です。調査は開始された昭和40年から磯田洋二先生を中心に行ってきました。その方法は、自生地内に設けた10m×10m調査枠内を1m四方に区切り、そこにある株が幾株か、そのうちどれだけの花が咲いているのかを二人一組になって数え、それを集計します。調査区によって粗密がありますが、サクラソウの密集しているところでは、カウントにもなかなか苦労するような状況です。そして当初設けた11か所を今日まで定点観測をしております。



自生地における生育状況調査



私は、ヘルドさんという人の顔を知っているわけではない。しかし、会ったことはあるはずである。ヘルドさん (Mr. Paul Held) は、アメリカはコネチカット州に住む小学校の美術の先生である。彼は、アメリカサクラソウ協会 (The American Sakurasoh Association) という会を、昨年 (1994) 頃つくった。ところで、アメリカなどでは、サクラソウ属の植物の園芸家の間では、Sakurasohといえ、日本で一般に行われている園芸 (展示) 用サクラソウのことと思えば良い。サクラソウ属の他の植物は含まず、Primula sieboldii (サクラソウ——いわゆる日本さくら草) のみである。アメリカ国内でもこのSakurasohの関心は高い。1992年4月、オレゴン州ビーバートンで開かれたサクラソウ国際シンポジウム (The Primula Worldwide Symposium) に私も出席することができたが、その時、浦和市の田島ヶ原サクラソウ自生地の紹介コーナーを作らせて頂いたところ、多くの参加者からPrimula sieboldiiかと尋ねられるほどであった。この会に、ヘルドさんも出席していたことが、後にわかった。

それでも途方にくれるばかりであった。そこで、埼玉さくらそう会の幹部の方に相談したところ、何とか工夫をして頂けるということであった。私は、そのことをヘルドさんに伝え、さらに日本では普通、芽分けが主で種を採取することはほとんどないことを伝えた。ヘルドさんは、婦人の大祖母ゆかりのロックガーデンにサクラソウがあるのを見、それを自宅に持ち帰り、そのすばらしさに魅せられ、以後、各方面から種子を取り寄せ、交配で生じたものも含め、250以上の異った個体を持つに至ったということである。そして彼のロックガーデンには、色とりどりのサクラソウが所狭ましとばかり生育しているのである。そのことを示す写真が他日、送られて来た。地植えでの群落は壮観だし、色々の差異もよくわかる。さきに埼玉さくらそう会にお願いした種子は、丹下文雄会員が採取されたものを、昨秋送付した。ヘルドさんは、次に、サクラソウの品種名の登録制度について関心をもたれている。サクラソウの名称の国際化もいずれ直面する問題であろうと門外の者ながら感じている。



ヘルドさんの庭のサクラソウ
(写真提供 Mr. Paul Held)

ヘルドさんは、日本からの協力を期待しているようである。浦和に来て田島ヶ原を見たいと何度も書いて来ている。コネチカットに住む1人がサクラソウの普及に情熱を燃やしていることに敬意を表するとともに、サクラソウの原種の自生地を保護している浦和市を誇らしく思う次第である。

(浦和市教育委員会文化財保護課長)



約2年後、ヘルドさんから私のもとに来信があり、日本の園芸用サクラソウの種子と自分のものを交換したいという内容であった。その頃、ヘルドさんは、すでに250余の異なるSakurasohをコネチカットの自分の庭に持っていたようである。私は、サクラソウの鉢10個前後しか持っていないし、とても品評会に出せるようなことをしていないし、種子といわ

さくらそう通信

平成7年11月10日

編集・発行 浦和市教育委員会

浦和市常盤6-4-4

☎048-829-1796

印刷 関東図書株式会社



浦和市

題字 教育長 浅見 匡